

# 平成25年度 見附市道徳部 活動報告

部長 小玉純恵

## 1 研究主題

今年度見附市独自の教材「みつけ塾」が見附市内の小・中学校の全児童生徒に配布された。「ふるさと見附を愛する子ども」「世に役に立つことを喜びとする子ども」の育成に向けて教育委員会が作成した冊子である。この「みつけ塾」をどのように活用していくかが今年度の課題となっていた。そこで、下記のような内容で研修会を行い、「みつけ塾」の活用方法について理解を深め、各校の道徳教育の充実を目指していきたいと考えた。

## 2 研究の概要

- (1) 期日 平成25年10月3日
- (2) 会場 見附市立見附第二小学校
- (3) 内容

- ・教育課程講習会の報告
- ・講演会 「みつけ塾の活用法について」  
講師 小黒 知也 様 (見附市教育センター嘱託指導主事)
- ・グループ協議①みつけ塾の活用法について実践を紹介するなどの情報交換  
②「人の生き方について考えよう」の資料の使い方の検討



## 3 研究の実際

講師の小黒先生より以下のような内容で講演をしていただき、研修を行った。

・「みつけ塾」は、道徳の時間だけでなく、朝活動に活用することもできる。また、国語では、ことわざや古典に関する学習の時に関連させて指導することができる。その他、理科、社会、保健体育、総合的な学習の時間などとも関連させて指導できる。

・暗記・暗唱は大切である。覚えさせるのは、単なる物知りを育てるためではなく、将来の正しい生き方に、生きて働く知恵としての知識を与えることを願って行うことである。

・子どもの豊かな生き方をうながす道徳教育や道徳の時間をつくるのが大切である。子どもたちに「自己を開発する力」を育みたい。そのために、子どもの生き方を様々な角度から深めていく指導をしてほしい。

また、グループワークでは、次のようなことが話し合われた。

・校長先生が講話をする時に活用したり、放送委員会の児童が昼の放送で紹介したりといった実践を紹介し合った。学習参観時にみつけ塾を使った学習を公開し、その後、家庭に持ち帰り親子で考えたり、視写したり、音読したりといった実践の紹介もあった。

・中学校では、職場体験の前に「つながる心と心」の資料を活用して指導したことが有効であった。総合の学習や行事と関連づけて指導することで効果がアップする。

・「人の生き方について考えよう」の長編の資料を道徳の時間に扱うには、難しい言葉が出てきたり、時代背景が分かりづらかったりするので、その説明を行いながら指導していかなければならない。低学年では紙芝居にして提示するなど意欲を高める工夫をしていくとよい。



## 4 成果と課題

小黒先生よりご講演をしていただき、多くの活用事例を学ぶことができた。資料をたくさん用意していただいたので、それを使って各校で伝達研修するなどし、各校の先生方に研修の成果を広げていきたいと考えている。